

Ⅱ 全学FD講演会・研修会

1 講演会・研修会の内容及びアンケート結果

(1) FD講演会：学士課程教育のカリキュラムマネジメント

講師：青山学院大学 教授 杉谷 祐美子 氏

日時：令和6年7月31日（水）16:30～18:00 Zoomによるオンライン開催

令和6年度 前期 FD講演会

学士課程教育の カリキュラムマネジメント

学士課程教育のカリキュラム改革を進めるにあたり、近年の動向や体系的な編成などについてお話しいただきます。

【日時】

＜開催方法＞
Zoom
URLは
UNIPA配信

7月31日（水）
16:30～18:00

講師	青山学院大学 教育人間科学部 教育学科 教授 杉谷 祐美子 氏
略歴	早稲田大学第一文学部哲学科教育学専修卒業。早稲田大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程満期退学。 青山学院大学文学部専任講師、准教授などを経て2015年4月より現職。 専門は高等教育論、教育社会学。 文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会特別委員、 文部科学省中央教育審議会大学分科会質保証システム部会臨時委員、 公益財団法人日本高等教育評価機構評価システム改善検討委員会委員 などを歴任。
著書	『学士課程教育のカリキュラム研究』（東北大学出版会、2021年、串本剛編）、 『よくわかる高等教育論』（ミネルヴァ書房、2021年、橋本雄市・阿曾沼明裕 編著）など

主催：大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

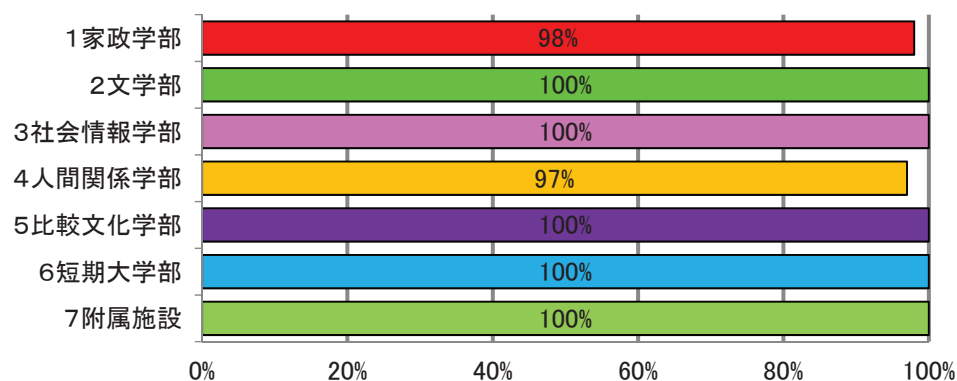
FD 講演会アンケート集計結果

- < テー マ > 学士課程教育のカリキュラムマネジメント
 < 講 師 > 杉谷祐美子氏(青山学院大学 教育人間科学部 教授)
 < 開催方法 > Zoom によるオンライン開催 + 録画配信
 < 開催日時 > 令和6年7月31日(水) 16:30~18:00
 < 録画配信 > 令和6年8月6日(火) ~ 公開中
 < 回答期間 > ①令和6年7月31日(水) ~ 9月12日(木) 0:00
 ②令和6年9月12日(木) ~ 9月30日(月) 23:59 (専任教員未回答者対象)
 < 未回答者 > (専任教員) 家政学部1人、人間関係学部1人
 (研修等除く)

【参加者(アンケート回答者)の所属】

所属	出席者			所属教員数
	Zoom	録画	合計	専任教員数
1 家政学部	23 人	42 人	65 人	66 人
2 文学部	5 人	32 人	37 人	37 人
3 社会情報学部	16 人	17 人	33 人	33 人
4 人間関係学部	12 人	21 人	33 人	34 人
5 比較文化学部	7 人	12 人	19 人	19 人
6 短期大学部	12 人	11 人	23 人	23 人
7 附属施設	8 人	12 人	20 人	20 人
8 非常勤講師	18 人	83 人	101 人	
9 助手	2 人	13 人	15 人	
10 事務職員	0 人	1 人	1 人	
合 計	103 人	244 人	347 人	

【所属別参加率】(専任教員)

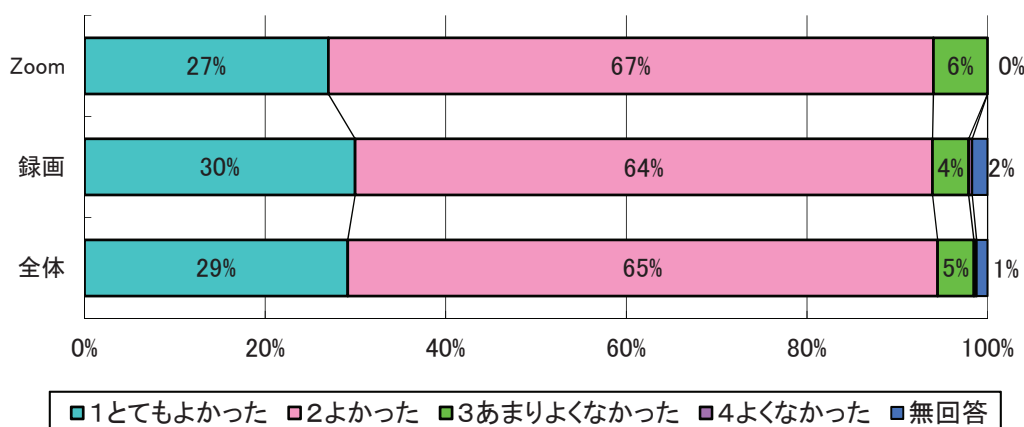


以下、提出されたアンケートの集計結果（アンケート回収総数 347 人分を対象）

問 1 講演会の内容、運営などについて当てはまるものを選択してください。

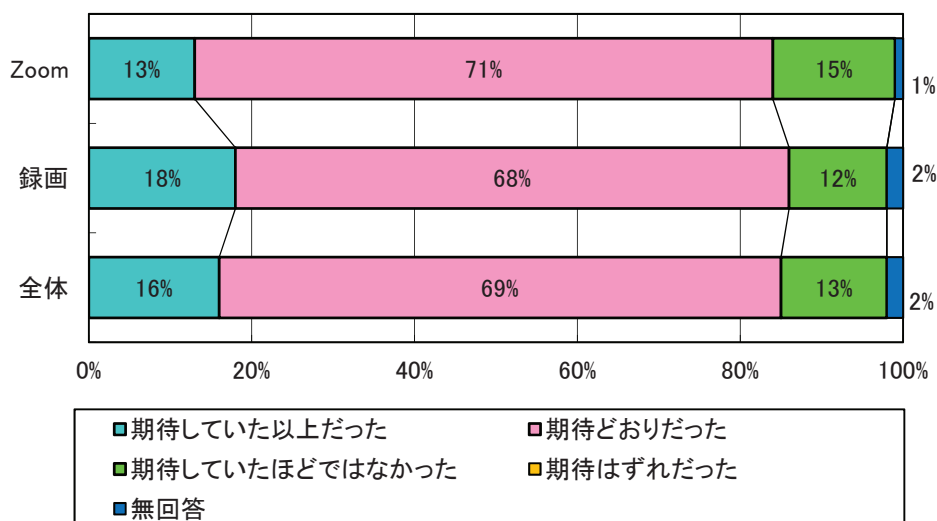
（１）講師について

選択肢	Zoom		録画		全体	
1 とてもよかった	28	(27%)	72	(30%)	100	(29%)
2 よかった	69	(67%)	157	(64%)	226	(65%)
3 あまりよくなかった	6	(6%)	10	(4%)	16	(5%)
4 よくなかった	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
無回答	0	(0%)	5	(2%)	5	(1%)



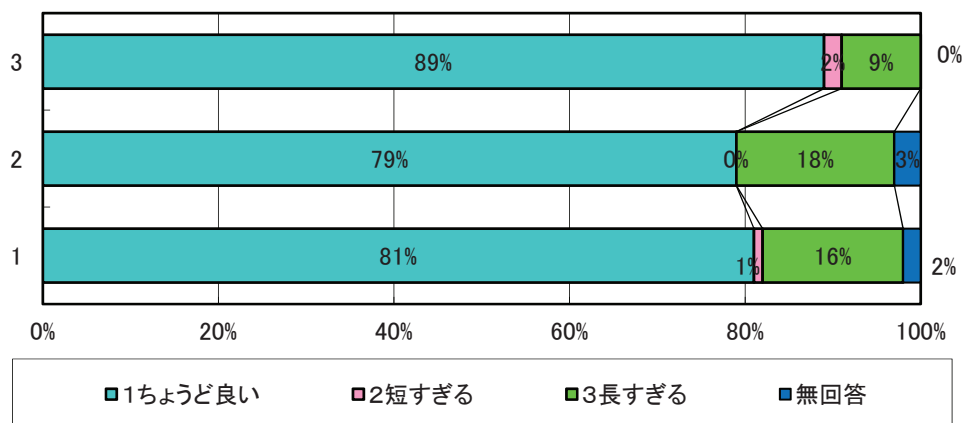
（２）内容について

選択肢	Zoom		録画		全体	
1 期待していた以上だった	13	(13%)	44	(18%)	57	(16%)
2 期待どおりだった	73	(71%)	167	(68%)	240	(69%)
3 期待していたほどではなかった	16	(15%)	29	(12%)	45	(13%)
4 期待はずれだった	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
無回答	1	(1%)	4	(2%)	5	(2%)



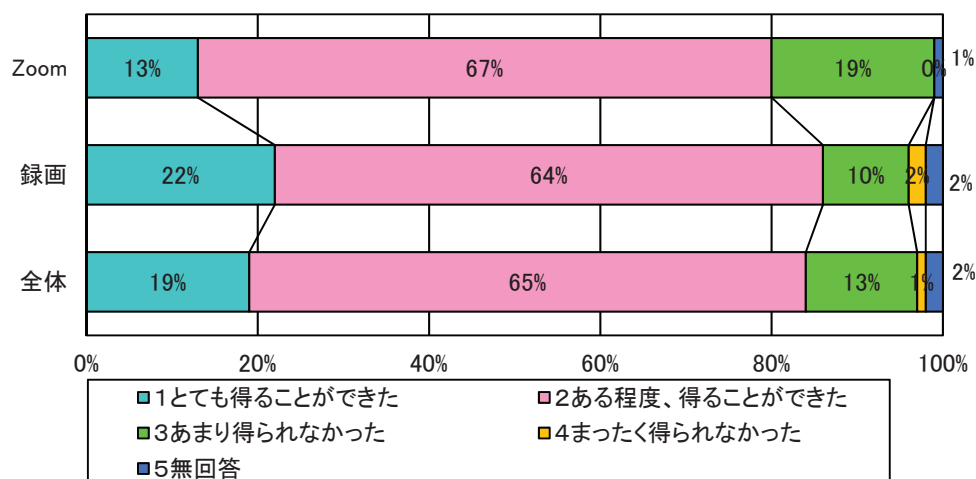
(3) 時間について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 ちょうど良い	92 (89%)	191 (79%)	283 (81%)
2 短すぎる	2 (2%)	1 (0%)	3 (1%)
3 長すぎる	9 (9%)	45 (18%)	54 (16%)
無回答	0 (0%)	7 (3%)	7 (2%)



(4) 自身の授業内容および方法の参考となる情報・知見について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 とても得ることができた	13 (13%)	54 (22%)	67 (19%)
2 ある程度、得ることができた	69 (67%)	157 (64%)	226 (65%)
3 あまり得られなかった	20 (19%)	24 (10%)	44 (13%)
4 まったく得られなかった	0 (0%)	4 (2%)	4 (1%)
無回答	1 (1%)	5 (2%)	6 (2%)



(5) 今後希望される講演テーマについて（複数選択可）

選択肢	全体
1 今回の講演テーマ関連	45 (6%)
2 国の高等教育・教育改革の動向	92 (12%)
3 本学の教育体制・教育改善の動向	113 (15%)
4 授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介	132 (17%)
5 成績評価と効果的なフィードバック方法	94 (12%)
6 初年次学生の教育支援	80 (11%)
7 配慮が必要な学生の修学支援	133 (18%)
8 キャリア教育・進路指導	69 (9%)

[今回の講演テーマ関連]

- ・今回の講演は理念的な説明が中心であったので、次回はカリキュラム編成や運営上の問題点の具体的な改善例や、先進的なカリキュラム改定の実践例について話を聞いてみたい。
- ・カリキュラムの改定を検討しているので、どのような視点に注意していったらいいのか、おおいに参考になりました。これまで検討してきた方向性は、講師の先生が示してくださった研究史のなかに位置づけられるのだなと確認できました。学部の壁を超えるというのは、ぜひ今後検討していったらいいと思いました。なお、学部のカリキュラム改革にあたっては、教員たちとの協力体制を構築するのが実は一番難しいと感じているのですが、それをどのように構築していくのがよいのか、アドバイスをいただけたらなと思いました。特に「何も変わらないのが楽でいい」と考えている先生方をどうやって巻き込んでいったらいいのか、悩んでいるところです。
- ・他大学でもいいのですが、より良い学部学科間の共同学習やカリキュラムの実践について知りたいです。
- ・審議会等の議論の枠を超え、講演者のより実践的、体験的な内容を望みます。
- ・教育工学的な授業設計の方法（今回のカリキュラム設計の基礎になると考えます）
- ・「大学の組織風土改革と大学のガバナンス」組織文化については、経営学の分野においては1990年あたりから取りざたされてきているが、上司の部下に対する権限が強く、全体がピラミッド構造となっている企業組織においてもその変換・変革は容易ではないのであり、まして教員間の横のつながりで組織されている大学組織における組織文化の変革は至難の業であると思われる。しかし、競争の激化の中でいずれ強く求められることとなろうから、この分野での研究成果についてももう少しお話を聞きたいところであった。また、組織文化の背景には組織ガバナンスの問題があることから、次回はそれと合わせての講演を期待したい。

[国の高等教育・教育改革の動向]

- ・データサイエンス学部も新設されますし、AIやビッグデータを利用した研究や授業、社会のニーズについて紹介してください。
- ・小・中学校教員の理科指導力の低下について、指導力の向上の方策、国の動向など
- ・大学におけるSDGsの取り組み

[本学の教育体制・教育改善の動向]

- ・学生の学びを保證できる授業のつくり方など。
- ・Fランク大学で、学生や保護者の満足度高い教育プログラムの事例を参考にしたいと思います。
- ・期末試験やレポートなどの提出されたものに関して、フィードバックが必要とされる大学が多くなりました。大人数のクラスでどのようにフィードバックを行うべきか、事例など挙げて、方向性や期待されるフィードバック方法などを紹介してもらえれば大変ありがたく存じます。（少人数のクラスに関しては個々にフィードバックを行うことが可能ですが、大規模クラスになると成績評価だけでも時間がかかるなか、全体フィードバックなどの方法でしか時間的・労力的に余裕がありません。期末試験で答え合わせなどができるものはよいのですが、期末レポートの場合、時間的に個々にフィードバックするのはかなり困難です。非常勤にとっては、勤務時間と単価の釣り合いが取れているとは言い難い状況にあるのが実情です。）

[授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介]

- ・女子大学における学生たちへのエンパワーメントとジェンダー教育についての、他大学等の具体的な実践例を知りたいと思います。
- ・女子教育に関する知見が得られる講演を期待したい。
- ・いつもテーマを決めるのに大変な思いをなさっていることと思います。いつもありがとうございます。前回のChatGPTの使い方や、大妻にあるreponの使い方のように、授業の促進力になるような講座を受講したいです。あるいは今の就職状況など、学生の就活の仕方など「今」を知る機会もあったらと思います。

- ・家政学部の児童学科では、自前の化学実験室がありません。他の大学では、実験室の確保をどのようにしているのか。また、実験用の予算はどのように確保されているのか？大学は研究する場所なのですが、研究費と学生実験費をどのように考えているのか、他の大学の例があれば、参考にしたいと思っています。以上

[初年次学生の教育支援]

- ・学生の学びを保証できる授業のつくり方など。
- ・教養科目と専門科目の接続が重要だと今回のFD研修で学びました。初年次学生への支援、あるいはキャリア・進路など卒業後に向けてのサポートのあり方について、具体的にお伺いできると、今回の内容が深められて良いのではないかと思います。

[配慮が必要な学生の修学支援]

- ・配慮が必要な学生の修学支援の具体的な在り方がよくわからない。本学の中の指針を知りたい。また、同じ科目の別担当者と、授業内容が異なり、達成目標が異なる場合、成績評価の方法等で不公平になるかもしれない。また、他教員の達成目標が同じでも評価基準にかなりの高低さがある場合、学習効果を同等とみなせるのかなど、同じ学科の同じ科目名の授業の足並みをきっちりそろえる方法を知りたい。
- ・配慮が必要な学生支援に関連して、最近の本学ならびに他大学での現状と課題、具体的な支援についての研修を受けたいと思っています。

[キャリア教育・進路指導]

- ・高校の教育および進路指導の現状。先日的高大連携協議会の内容は、これと同様の位置づけ（視聴義務化）をしてよかったように感じます。
- ・正課であるキャリアデベロップメントプログラムやキャリアデザインの授業は全学的に同じ方針で授業運営がされており、毎年一定数の学生が受講していて成果を挙げています。しかし正課外のOMAは担当教員が相当に尽力しているものの受講者が頭打ちの感があります（特に多摩校）。他大学で正課外のキャリア支援教員の好例について取り上げていただけるとありがたいです。
- ・大学と地域との連携やボランティア活動の推進について

[その他]

- ・どのような分野でも、通常お聞きできない話に触れることを感謝しています。ありがとうございました。
- ・上記のどれかにチェックを入れないとエラーになるのでひとまずチェックをしましたが、「その他」です。テーマというより、教職員が直接話したり交流するような会にしなくていいのかな？という気持ちがあります。それぞれがそれぞれの考えと立場で取り組んでいることを尊重しつつ全体としてよい方向に進むためには、もう少し直接話をしなくてはいけないのではないかと思います。教員もそうですが、職員も含めて全く仕事以外の顔が見えません。ぶっちゃけ何を考えているかわからないなかで「お立場」だけの付き合いをしたところで、なし得る仕事は官僚的なものではないのかなとは思っています。

問2 今回の講演会で、お気づきの点、記憶に残った点、ご意見などございましたらご入力ください。

- ・ご講演ありがとうございました。たいへんまとまったお話で整理に役立つものとなります。
- ・特に学期制について記憶に残った。自己推薦の入学者多い状況ですので、集中的に学びを深めるために週に1回ではなく複数回授業を実施した方が、特に1年生には良いように思える。
- ・講義50分前後にある目標についての話が参考になった。行動目標だけを見ると教育内容が矮小化してしまうという講師の考えに賛同できる。私の分野である英語教育では「英語が出来るようになる」という行動目標が求められるが、そもそも日本語話者が文法・語彙・音韻体系が全く異なる英語を習得するためには一日数時間の学習が必要とされるという事実が専門家の間では認知されている。1週に2コマの授業では行動目標達成は難しい。講義で述べられている、方向目標、体験目標であれば現在の授業時間でも達成できる。実際その目標の下で教育を行ってきた。
- ・今回のFD講演会のテーマについて、特に必要性を感じていたので興味深く拝聴しました。ご講演の中で特に注目したのは、「カリキュラムマップの作成と活用について」です。精緻に作成することの必要性は言うまでもありませんが、その活用の際には当然学生の理解を伴わなくてはならず、それが学生の負担を増すことになることは避けねばなりません。そうした有効性を持ちながら負担とならない境界を求めて行かなければ、とあらためて強く感じました。
- ・ありがとうございました。現状を認識することができました。
- ・大変勉強になりましたが、アンケート内容に関しては今後、回答欄に「該当しない」というような項目をお作りいただけると助かります。授業をお持ちの先生・助手が対象のため、授業を持っていない助手なので回答に困る部分がありました。
- ・カリキュラム構築の理論について学べた。
- ・文理融合について関心がありましたので、その件についてのお話に興味がありました。あとは内容が少々、カリキュラムマネジメントそのものの研究についてのお話になってしまったので、内容が理解できない点がありました。具

体的な事例を示していただくと、より理解しやすかったと思いました。

- ・現在のカリキュラムを改善していくには、教員間の合意形成が重要であることが確認できました。一方で、受講者数の非常に少ない授業が散見される実態をだれがどのように改善につなげていけるのか、実効性に無理があるような印象です。属人的な授業編成のもとに現状があり、必要な（求められる）授業を担当できる教員ばかりではないことをどう解決すればいいのか、わかりません。
- ・後日視聴でしたので、リアルタイムでの質疑応答があったのかと思っておりました。他の先生方のご意見も伺いたいと思います。
- ・所属学部のカリキュラム編成、また、学部横断的な授業について、あらためて考えさせられた。学部横断的な授業を新設する際にも、各学部に丸投げするだけでなく、全体のデザインを統括的に検討してほしいと感じる。
- ・6. の設問への回答は「授業を担当していないため」で、講演内容に関することではありません。
- ・可視化される到達目標だけを設定することの問題点が印象に残りました。
- ・とても高尚なお話して理解が追いつきませんでした。資料などいただけますと振り返りができるかと思います。

⇒8/6 に録画版と併せて資料を配信しました。

- ・多種多様な視点から学士教育のカリキュラム編成の方法とマネジメントとの関係を理解することが必要だということに気づきました。これから実際にカリキュラムの再編を考えるときに、このような視点を活かしていければと考えています。
- ・大学におけるカリキュラム編成の現状や、カリキュラムマネジメントという概念について、情報の共有をありがとうございます。講演内容はまだ消化できてはいませんが、学生本位のカリキュラム構成の構築・授業設計ということについては、共感するところが多いです。特に、授業の目標・評価・進め方を、互いに有機的に関連させた「三位一体」の授業を行うことは重要だと思います。また、私自身はシラバスで行動目標を設定してはいますが、授業準備及び、試験作成・評価の段階では、向上目標や体験目標も視野に入れて実施していることに気づきました。そのあたりをさらに意識化して、今後のシラバス作成や授業のやり方に役立てられればと思いました。
- ・カリキュラムマネジメントの必要性について関心を持って伺うことができた。しかし3 ポリについて評価できる表現、内容、すなわち数量化や客観的なエビデンスを求めることが難しい理念や概念もあったことから見直しを進めなければならぬと常に思う。DP と CP の策定にあたって、両者の整合性が難しく課題として残っている。
- ・私たちの学部ではカリキュラム改革が進行中なので、その部分に関係するを通して、細かい事を知ることができました。ただし、制度的、理論的な紹介が全体的に多く、もっとカリキュラム改革の具体例（他大学等の）を紹介してほしいと思いました。
- ・大学教員として教務関係の仕事をこなすなかで経験的に蓄えてきた知識をこのように体系的な説明として聞く機会がこれまでなかったので、いろいろと参考になった。特にカリキュラム編成や運営上の諸課題が他の問題との関係でどのように位置づけられているかなどを改めて確認することができた。
- ・カリキュラムマネジメントの歴史的な背景から現在、今後に向けて、非常に分かりやすい説明でした。
- ・大学教員として日常的に実践している全体像を客観的に捉えるために今日の講演会は役立った。しかし、大学での教員養成課程を経て教職免許を取得し学習指導要領にしたがって検定教科書を中心に標準的・画一的に授業を実施し児童・生徒指導を行う初等中等教育（小中高校）の教員と、教員養成課程を経ることもなく多様な専門分野の研究に基づいて独自に授業を組み立てて学生を試行錯誤しながら教授する高等教育を担う大学教員との根本的な違いを無視して、初等中等教育のカリキュラムマネジメントをそのまま大学教育に適用してカリキュラムを運営しようとする方向性には、かなり無理があると思われるので、実際に学生教育にあたる大学教員が、今日の講演をどのように日常的教育研究に活かしたらよいか正直なところわからない。
- ・時間の制約もあったようですが、大変に勉強になりました。カリキュラムマネジメントの評価手法（チェックシートなど）の内容説明をもう少し詳しくお聞きしたかったです。
- ・今回の講演会で、カリキュラムに関する大学施策の展開およびカリキュラム編成の現状を理解した上で、カリキュラムマネジメントについて考えることが出来ました。特に、カリキュラム編成の構成要件である（2）構造 シークエンスの内容は学習で得られる「経験・理論・気づき」を系統制のある言語でまとめたもので、専門領域の積み上げを考える上でとても参考になりました。
- ・学士教育を考える上で大切なポイントを得ることができた。
- ・教育目的や教育目標に関するお話等、今後の授業設計やシラバス作成の際に参考になる点がありました。
- ・学科長（など）のリーダーシップの下で全教員が参画して合意形成する重要性、そのために十分な時間をかけることが必要であることなどを再認識しました。また、カリキュラムを作ること自体が目的になりがちだが、学生の教育成果を高めるためであるという本質を疎かにしてはならないと感じた。
- ・散漫な印象を受けた。アドミッションに関する視点が軽視されているのも気になった。また、方法論がどのように検証されているかの言及もなく、参考にならないと感じた。
- ・いくつかの分類項目の提示とタイプについての専門用語の提示があったおかげで、これまで所属学科のカリキュラム編成で行ってきたことを、特定の用語でより簡単に説明し、より明確に位置付けられるようになったと思われる。具体的には、所属学科について、（1）目標は学科の教育理念をコアに据え、「社会的要請」（ただし実業界の実務的な意味での要請ではなく、近代化が進む社会が求めるもの）に基づくものであること、設定しているのは「到達目標」ではなく「方向目標」であること、（2）スコープについては、学科理念に照らして社会科学と自然科学の組み合わせによる複

- 数の学問領域とした総合的な内容であり、理論と実践を組み合わせ、また正課と正課外の両方にまたがること、(3) シークエンスについては「並行型」であること、(4) 履修原理については、「経験主義」に基づきながらも必修、選択必修を多くし、「共通性」(学生の好みに依存して特定分野のみの学習とならないこと)を確保していること、(7) これら进行评估するために「ポートフォリオ」を採用していることと表現し、位置づけることができる。そして、こうした用語を適用することで、目標やスコープ、シークエンス、評価方法の間に一貫性があることを改めて確認することができた。また、本学科においては日本家政学会の家政学の定義(「参照基準」が作成される以前から存在する)や「家政学ガイドライン」に基づいて学科理念の設定やカリキュラムの改訂を行ってきており、「参照基準」に基づいてのカリキュラム編成が全国的に弱いとの統計結果は意外なものと思われた。学科のカリキュラムが「参照基準」のような専門的学問分野のコアから乖離しすぎると、流行を追って安定を失うことになりかねないので、本学各学科・専攻における「参照基準」の参照の有無はどの程度のものか、企画・戦略室が一度チェックしておく必要があるのではないのか。
- ・毎回、タイムリーなテーマを取り上げてくださり、感謝申し上げます。
 - ・カリキュラム改訂などが問題になっている現時点において、どのように進めていったらいいのかについて、授業の内容とマネジメントの視点から体系的な説明があった。これまで事例や体験など個別化されていたものの全体像について知ることができたのは良かった。ただ抽象化された話が多く、具体的に何を意味するものかわからない事柄も多かった。
 - ・栄養士、管理栄養士養成課程の法律の制約があって、活用するには難しいと感じました。
 - ・カリキュラムマネジメントに関し、キャップ制のより厳格な適応と、1授業に関する1週間あたりの開講数の複数化を行わない限り、学生の受講授業数が10を超える状況を変えることはできない。この状況を制度的に改善しなければ、学生に対し一定量のリーディングアサイメントなどを課すことなどは実質的に不可能に近いし、結果として密度の高い学習に到達することが困難だと考える。
 - ・カリキュラムに関する大学政策の展開のこれまでの流れについては、とてもよく理解できた。またどのような考えの元にどのような政策が展開されてきたのかも、ある程度理解でき、有意義な時間を過ごすことができた。【感想】(1)このような政策で一斉に動かしてしまうと、理念とは逆に多様性を奪うことになっていないか気になった。(2)世界の高等教育の中での日本の位置付けについても、お話をお聞きできると良かった。海外、特に欧米の高等教育機関との互換性なども気になる。
 - ・少子化問題が益々深刻になる中で大学教育の質を向上していく為に何が必要か、具体的にカリキュラムに取り込むかについていろいろ考える時間でした。最近の制度や方針、そして基準から教育現場の変化などを知ることになり、大変勉強になりました。
 - ・自分の業務にあまり関わりがないと感じている内容と思いました。
 - ・カリキュラム編成の構成要件など、全体像についてもう一度確認できる機会になった。
 - ・教育課程の編成において、学院全体で話しあうことで魅力を構築できるのではないかと感じた。
 - ・学部、学科、専攻の垣根を超えたカリキュラムマネジメントは重要だと思うが、具体的な方法が思い浮かばない。
 - ・学部や学科を超えた取り組みの重要性。ただし、免許が絡むとできないものが多く、そのあたりの改善が求められる。全学共通科目と専門科目の関連性の検討などが必要とかんじた。
 - ・学士課程教育のカリキュラムマネジメントの基本がよくわかりました。時代に応じた大学の教育の在り方を遂行できるよう努力したいと思いました。
 - ・私は非常勤講師ですので貴学のカリキュラムの編成やマネジメントに直接関わる立場にはありませんが、今回のご講演で示された方向性や考えが将来的に貴学のカリキュラムにどのような形で反映されることになるのか、非常に興味深くお話を伺いました。また、カリキュラム編成の構成要件の中でお話されていた教育目的、教育目標における行動目標の批判とその代案としての方向目標、体験目標という考え方はとても印象的でした。今後授業案を考えるときに参考にしたいとお思います。
 - ・とても高度で抽象的な事柄についても講師の先生は分かりやすく説明されていて、ありがたく拝聴しました。
 - ・カリキュラムの策定を含めマネジメントをどこが主体で行うのか、各学科教員だけが行うのは、教員負担が大きくなりサポートする部署が必要と思います。また、形骸化がとても心配です。
 - ・カリキュラムの多様性について、本学は「原則対面授業」へ向かっていますが、一部オンデマンドも残してもよかったのかなと思いました。
 - ・カリキュラムマネジメントのポイントがよく纏められており、参考になりました。「大学教育ですので、行動的局面向けに現れる矮小化されたような到達目標だけを設定していて良いのか」「私自身とても疑問に思っている」という杉谷先生のご指摘に非常に同感しました。カリキュラム改訂の際の「大学における合意形成を促すリーダーシップの重要性」も印象深かったです。
 - ・この講義をありがとうございました。カリキュラム管理の現状、特に過去10年間でどのように進化してきたかについて、とても示唆に富んでいました。質問があります。現在の日本の大学教育におけるカリキュラム・マネジメントの実践が、2020年から2023年にかけての新型コロナウイルス感染症の影響をどの程度考慮しているのか、気になっています。教育機関が2019年に戻ろうとしているような感覚を持っています。しかし、緊急事態措置により、誰もがオンラインで仕事や学習を余儀なくされ、学生の出席率や成績が著しく低下しました。学生はオンラインに追いやられ、十分な学習スキルが身に付かないままでした。コロナは教育の歴史における一時的な出来事ではありません。コロナは大きな転機であり、大学教育はこの新しい状況に適応する必要があると考えます。そうでなければ、学生、教育者、管理者

の全員が苦しむことになるでしょう。現在のカリキュラム・マネジメントにおいて、コロナの影響を強く認識した取り組みがどのように行われているのかを知りたいです。

- ・学内で教職員が協働する文化を醸成していくこと、我々意識を持つことの重要性の指摘が記憶に残りました。人間関係学部内での学科・専攻間の垣根をどうしていくのか、昔から議論になっていますが、まずもって我々意識からスタートする必要があるように感じました。
- ・「何を教えるか」より「何かできるようになるか」に重きを置こうとする近年の大学教育の潮流に関して、個人的には実業界からの要請に迎合しすぎているという感じで、どこか懐疑的に受け止めていた。そんな中、講師が外面的に表出された（客観的に測定可能な）行動変化に目を奪われすぎるとは、かえって大学教育の本務に反するという趣旨のことを述べられているのを聞き、わが意を得たりという思いでした。これまでモヤモヤとした疑念にとどまっていた自分の感覚について、明確な形で言語化していただいたような気がします。
- ・カリキュラムの見直しはある程度できるが、カリキュラムを変えるのは難しいと感じています。カリキュラム変更をするにあたっての具体的なコツをもっと知りたいと思いました。
- ・講義を担当する者として、俯瞰の視点を与えて頂き本当に良かったです。学生・受講生が能動的に参加して動き出せるような授業内容を工夫して参りたいと思います。貴重な助言をありがとうございます。
- ・講師の杉谷先生が資料が事前配布されているとおっしゃられていたので事後でも良いので配布ください。

■8/6に録画版と併せて資料を配信しました。

- ・今回はカリキュラムマネジメントに関わる大局的で理論的な見地を得ることができた。理論的な部分をしっかりと理解するには90分では短いと思うので、同テーマで部分部分に分けてシリーズで行っても良いかと思いました。
- ・近年の審議会等の議論をふまえた、全体の方向性や全体像が把握でき、勉強になりました。多くの大学が共通して抱えるカリキュラム・組織文化の改革の課題につき、具体的な実現例などがあれば、参考になります。
- ・大妻で非常勤を長くやらせてもらっていますが、カリキュラムマネジメントに関して詳しく聞く機会がありませんでしたので、いい機会で勉強になりました。自分が企業での技術教育を長く行ってきた経験から、大学教育はまだまだ知識教育から抜け出せていないと感じています。今の時代は、知っていることより出来るようになることが、学ぶ者の最大の喜びだと思います。また大学教員がそもそも研究者であるので、教育方法や学習指導など直接学生に対する活動に関して自分の力をつける、研究する機会を持たないことが、大きな問題のように思います。
- ・履修証明制度について、他大学の同好について詳しく知りたかった。
- ・大学における「マネジメント」のポイントがよくわかりました。
- ・所属する学科で新カリキュラムを作成しているため、ご講演から考えさせられることが幾つかあり参考になった。とりわけ、専門科目の早期導入による「教養科目に対する教員および学生の軽視増加」という点ははっとさせられるものがあった。学科の特性を打ち出そうとするほど、いわゆる教養科目の軽減化が進むというジレンマは確かにあると感じた。別の項目では、他の大学でも学期あたりの授業回数（現在15回）に対する検討が成されていることについても興味深く思う。100分授業とし、学期あたりの回数を減らすという試みもありかもしれないと感じた。アクティブラーニングについても言及があったが、これを進めたい意思は強くあるが、ゼミ以外受講生が60、70名と数十名を超える授業しかなく、学生へのフィードバックを十分に作る時間も労力もない現状から、アクティブラーニングを推し進めるのであればやはり履修生数の制限や少人数化を真剣に推し進めなければならないと感じるが、教員数や授業開講コマ数、教室稼働率を考えると難しいだろうともどかしい。
- ・日本の大学におけるカリキュラムマネジメントの全体像と実態とを俯瞰することができ、本学における教育を考える上で、大変参考になりました。またツールを作成する際、作り込んでしまっただけでかえってわかりにくいものになってしまうことや、作ったことで満足してしまうといった話にはリアリティを感じました。学生と共有し、学びの道筋が理解しやすくなるための「コミュニケーションツール」という言葉に、大いに納得した次第です。貴重な講演ありがとうございました。
- ・マネジメントの話のなかで「ミドル」というワードがよく出ていたが、本学は理事長と学長とが同一人物によって運営されているなか、「ミドル」が上意下達の結節点／翻訳者／中間管理職にはなり得るが「ミドル」の主体的な取り組みが組織化されることはあるのかな？その方途とは？と疑問には感じた。多摩キャンパスにいた時にあったような教職員の交流会もなく委員会で顔を合わせているだけで教員／職員の「ミドル」が連携できるのかというのもいささか心許ない。その辺を具体的に聞きたかったので、講演者には（刊行年の古い研究成果を紹介するだけでなく）もう少し事例・実践例を紹介していただきたかった。（直前に高大連携の動画を見たのでなおのこと、です）
- ・今後のカリキュラム改訂の参考になる講演だったと思います。
- ・講師の先生が、配付資料がある前提でお話しされていましたが、事前に配付されていたでしょうか。告知のメール等に添付されていたかもしれませんが、再度ご案内いただけると助かります。よろしくお願い致します。

■8/6に録画版と併せて資料を配信しました。

- ・非常勤の立場で出席したため、カリキュラムマネジメントについてのもともとの理解が足りないうえ、直接的に検討及び作成する立場にないため、あまり実践的に役立つものではなかった。得られた知見としては、冒頭にお話くださった、学士課程教育の歴史的な話は大変興味深かった。
- ・今回は表題の概説であり、マネジメントする側の視点のみで語られていたので、マネジメントに組み込まれる側（方針に従う側）の視点のものも聞いてみたいと思った。
- ・講演内容に関することではないのですが、動画視聴の途中でコマーシャル動画が入って来たのが気になりました（これ

まで、同じくらいの時間でもコマーシャル動画は入らなかったように記憶しています)。

- ・文科省の説明のような内容で、抽象的でカリキュラムの改善に対する具体的な施策に結びつく内容とは感じられない。各大学の具体的な事例などの紹介の方が役に立つと感じる。
- ・毎回、タイムリーなテーマ・講師のもと、これからの見通しをもつことのできる、とても有意義な内容でした。
- ・教育目標に関する解説のうち、『逆向き設計論』のところは非常にわかりやすく、大変参考になりました。今後参考にして教育目標を書きたいと思いました。ありがとうございました。
- ・カリキュラム改革を進めるにあたって課題共有ができたと思います。また、具体的なチェック項目もご提示いただき大変参考になりました。ぜひ活用させていただきたいと思います。
- ・最後のご挨拶にもありましたが、設定時間では消化しきれないほどのボリュームのある資料(恐縮ですがこの大きさでは前半は字がよく見えません)とお話で勉強になりました。ありがとうございました。とくに 21 頁の「(1) 教育目的・目標」以下のお話が、例年シラバスを作成している身としてはいろいろと参考になりました。前半と後半(こうした具体的な内容と大学のマネジメントの問題)で2回に分けてもよかったのでは、と思う分厚い内容でした。
- ・もう少し実践的、あるいは本学の課題を発見することにつながる内容を期待していたが、カリキュラム編成の一般的な動向にとどまっていたように思う。文科省の設置基準に対して、どこまで独自の施策をとることができるのか、あたりを知りたかった。
- ・科目間の連携を図ることの大切さを改めて感じました。そのためには、ミドルリーダーの存在(全体を把握しバランスをとる)とその果たす役割の大切さも理解できました。貴重なお話をありがとうございました。
- ・従来、比較文化学部では、カリキュラム改定については将来構想委員会のみが担当している状況で、学部教員全体で検討することは比較的にできていなかった。意見を言うにも、非常に言いにくい雰囲気があり、若手教員の意見をつぶすなどの状況がみられた。しかし、杉谷先生は、協働こそが重要であると強調されていたので、今後のカリキュラム改定については、学部全体での十分な意思疎通が重要だと実感した。
- ・非常勤講師であり、大学授業は大事のみでするので、カリキュラムマネジメントについて知る機会を得て、良かったです。
- ・良いカリキュラム、そしてカリキュラムマネジメントを構築していくためには協働性が重要であることが示されていたが、同館であります。協働性の4つの必要条件が示されていたが、これらを構築することが難しいと感じる。ビジョンの共有化などは形式的には可能だが、これをした上でいかにいかに同僚性である我々意識を各教員が保持するかが課題であると思う。これらにはマニュアルはないと思うが、今後は探求してみたいと思うようになりました。
- ・やや専門性が高く、一般の教員向けの内容ではないように思いました。情報量も多く講演時間もオーバーしていました。申し訳ありませんが、あまり記憶に残らない内容でした。
- ・多様性や評価方法に学修者の行動として可視化しえない部分をどのように拾うかといった新しい視点を改めて学んだ。カリキュラムや授業間をつなぐ上で入学してくる学生がどのような取り巻く教育環境から来たかを理解する大事さを学んだ。
- ・施策の網羅的な紹介が中心だったかと思いますが、具体的に自分が何をすると良いかをイメージするのは困難でした。具体的な大学などでの取り組み例、また、その結果どうだったかなどの検証例があるとより分かりやすかったのではないかと感じました。
- ・スライドの作り方がとても上手で、説明も説得力のあるものでした。
- ・日本における大学教育におけるカリキュラムについて、基本的なところを整理して丁寧に解説していただいたことによりその動向や今後の方向性が理解された。また、学習目標をどのようにとらえるのか(行動目標、到達目標、方向目標、体験目標など)という点は、大学という高等教育をどのように考えるのが重要である点についてあらためて考える必要性を感じた。
- ・現状の説明に加えて、講師ご自身の意見をお話いただいた点、企業と異なり、人を育てるというスタンスが必要であることを伝えていただいたと思います。大学もまた、企業的な運営システムの整備も必要で、経営面で現代社会に呼応して迅速な対応を迫られているのはよく理解できますが、大学は企業とは異なり、人間を育てるのが基本であり、眼前の危機的状況に慌てるばかりではいけないと自戒しました。国公立とは異なり私学である限り、本来、何を志して設立されたのかを常に念頭に置いて現実を直視しながらも都度に学生に何が必要かを見据えていく必要性を改めて認識できました。
- ・話題が多く、次々に説明があり、ついていくことができませんでした。私のように詳しくない者にとっては、もう少し、テーマを絞り、具体的な例を入れていただきながらご説明いただきたかった。
- ・資格養成プログラムに支障なく活かせる内容があればもっと参考にできたかと思います。
- ・担当する科目について学習の順序性・シークエンスの視点から見直したいとおもいます。科目の連関の重要性について再認識できました。ご専門家による貴重なお話をありがとうございました。
- ・今まで様々な変化を求められ対応してきたが、今回の講義では、なぜ変えなければならなかったのかの答えがありました。それが分かったことはとても意味があることだったと思っています。そしてそれが日本の高等教育の理想の形がよくよく考えられていたのだということもわかりました。しかし、現場は理想通りにはいかないことも多いです。特に学生という流動性と心のある対象を相手にしているため、理想と現実の板挟みにあるのはやはり現場の教員なのだと理解しました。大学だけが進化するのでは、高校から大学に入ったときの考え方に大きな乖離が生まれます。高校までに大学がどのような場で、どのような考えをもって学ぶ場なのかを周知できたら高校生も大学になじみやすく、現場の

教員も初年次学生の教育を考えやすく、次のステップに導けるのではないかなと考えながら聞きました。学びの場をありがとうございました。

- ・カリキュラムマネジメントにおいてのリーダーシップの重要性をあらためて理解しました。学部や学科を超えた教育課程の構築は今後求められることだと思います。学部学科が異なるが、同じ専門分野を担っている学部や学科とまずは教員間で繋がることも大切な事ではないかと思いました。今後少子化が進む中で、魅力ある大学のカリキュラム作りをしていく基本的な事項を理解することができました。
- ・①カリキュラムツリー等は、初回授業でも便利に使用させて頂いています②【あくまでも感想です】今後は、各教員がマネジメント評価を受けることになるのでしょうか。その際には、「教員への聞き合わせ内容」と「学生からの授業評価」の双方を同時にすり合わせる必要性が生じるのでしょうか。双方の内容を客観的に評価することは、(想像上)なかなか高度な視点を要することを想像しました。
- ・授業計画、シラバス作成などにおいてとても有意義な内容だった。事前配布されたという研修会資料を確認し忘れたので、どこかで入手かのでしょうか？
➡8/6に録画版と併せて資料を配信しました。
- ・カリキュラムマネジメントについて他大学の動きも知ることができてよかったです。
- ・カリキュラム作成については初めて知ることが多く大変勉強になりました。また、一般科目と専門科目を関連づけることが印象的でした。
- ・カリキュラムマネジメントという論点は考えたことがなく、新鮮でした。マネジメントの論点からは、少し外れますが、91年の設置基準の大綱化に杉谷先生はやや批判的なのかなと思いました。教養教育と専門教育がバランスよく実施できる大学、偏差値を指標にすれば60程度以上の大学で実施すると教育の充実が期待できるという内容だったように思います。論旨の聞き間違いかもしれませんが、近年本学の偏差値が急落し、今後は教育困難な学生も増えてくることが見込まれていることから、少し穿った聞き方になったのかもしれませんが。定員割れ大学の場合、学生や保護者の大学への期待は就職をきちんとし、社会に出てほしいという点に、ますます絞られていくだろうと思われます。そうすると、カリキュラムが次第に専門学校化せざるを得ないように感じています。そうしたカリキュラム改革の渦中にいる教員の一人として、マネジメントのお話を参考にさせていただこうと思いました。
- ・非常勤講師のため、学内全体での意思疎通などがなかなか取りづらいなか、このように大学全体の動きや狙いなどがわかるのはとてもありがたいことです。シラバスではカリキュラム全体を考えるよう指示されているかと思いますが、この大学でも方向性などの情報不足を感じていますので、このようにFDなどを通じて最新の動向など周知がなされると大変役に立つと感じました。このような機会をいただきありがとうございました。
- ・本日の研修資料の配付に気づかず、手元に資料がある方が解りやすいです。

➡8/6に録画版と併せて資料を配信しました。

- ・話にあがっていた組織文化は長い年月をかけて作られ継承される。協働性や教育の質にも影響する、重要なものであると考える。
- ・貴重なお話で、整理された情報を提供いただいたと思っていますが、画面の中で、短い時間に資料を見るのは難しく、別途印刷資料等ファイルでもよいので、提供いただけると理解が深まったかと思っています。講師の方は丁寧にお話くださったと思うのですが、その場で画面資料をさっと見るだけで捉えるのは難しかったと感じております。

➡8/6に録画版と併せて資料を配信しました。

- ・専門分野が異なるため、専門用語が分からなくて、理解しづらい部分がありました。「3つのポリシー」、「3P」、「PDCAを回す」など使われても、最初に説明がないと、すぐには分かりませんでした。「スコープ」や「シークエンス」という用語は後から説明がされたので、出てきた時点では分かりませんでした。求められるカリキュラムのところは、わかりやすくまとまっていて、理解できました。カリキュラムマネジメントの結果として、『「良好」な結果を生み出したのか』と『「弱体」した結果が現れたのか』のアンケートのブラフは興味深かったです。
- ・図書館学課程担当教員としては、課程範囲でのカリキュラム運用になってしまう傾向が強い。とはいえ、各学部との連携や学部・学科のカリキュラムとのつながりを含めた内容の精査が今後は必要ではないかと強く感じる事ができた。これらについては、担当教員の手腕に頼っていた部分が大い。これからは、目に見える形でシラバス等に明文化することや、その成果を確認する仕組みを持つことで、本学特有の図書館学課程として、他大学課程と差別化できるのではと、本講演会を通じて考えることができた。
- ・実務家教員（インテリアデザイン）として、長らく関わらせて頂いております。実務家教員に教育の機会を提供いただけることは、大学教育がさらに「心理的要請」と「社会的要請」に結びつき、学生の行動的局面を大いに下支えするものだと思っております。実務家教員がカリキュラム設計に参加できるような機会があれば、学生の「真の生きる力の形成」に寄与できる可能性が高まると再確認をいたしました。改めて、教授する意義と勇気を頂く素晴らしいご講演に感謝申し上げます。
- ・今回はカリキュラム・マネジメントに主眼があったかと思いますが、個人的には高等教育総論の方に興味をより持つことができました。
- ・教務委員を務める中で、カリキュラムについて考える機会が多く、より深い知見を得たいと思っていたので、自分にとって非常にタイムリーなテーマでの講演会で、学ぶところが多かった。「立派な図を描くことも大事だが、それが実現可能かも含めて検討することが大事」との指摘が印象深く、今後カリキュラムの編成に関わる際に役立ててゆきたい。
- ・教学マネジメントの実現に成功している大学の共通点は、モチベーションの高い教職員が一体となっていることである。近年、特に優秀な若手職員がなぜ次々と退職したのかについて経営層の皆様は見過ぎさないで欲しいと願います。

- ・具体的に説明していただき、わかりやすかった。文科省の計画なども知ることができた。
- ・最後に山倉先生がおっしゃっていた、近接分野の学科同士のブリッジ科目をどうするかなど、喫緊の課題なので気になりました。
- ・急激な少子化で、これからの高等教育のあり方の将来像を考えるにあたり、国の枠組みを超えた広い枠組みで考えての大学教育マネジメントが聞かれると思ったが。
- ・個人的にカリキュラムマネジメントについて学ぶことができたが、学内での連携やリーダーシップなどの話は、任期付き単年度の更新になるため、中期的に計画が立てられないので興味が持てなかった。
- ・どうしても自分の教えたいこと、教えるべきと考えていること、教えられることを中心に授業を構築してしまうが、教育目的だけでなく到達目標等様々なレベルでの目標設定や累進型か経験先行型かなど興味深いお話が聞けた。講義形式の授業と演習・実験授業ではまた対応が異なると思うが、今後の授業の構成に反映させていきたいと思っている。
- ・特にありません。内容的には妥当な講演会でした。
- ・カリキュラムの組成プロセスについて、一定の段階的形式を学ぶことができた。
- ・学士課程教育のカリキュラムマネジメントに関する講演は多くの情報と知見を得ることができ、有意義でした。社会経済課題が多様化・複雑化する時代において、2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（2018）に基づく内容は興味深く拝聴いたしました。時代の変化に対応したカリキュラム編成は不可欠であり、その際「体系的・横断的・組織的・断続的・開放的・先導的」が重要なポイントとして印象に残りました。特に学部・学科等の枠を超えた「文理横断」「文理融合」型教育の推進は予測不可能な時代の要請でもあり、複眼的思考力の育成につながるでしょう。何よりも、学修者自身が学修成果を実感できる教育（学修成果の可視化）が重要であり、3つの目標（達成・方向・体験）を明確にすることが大切であると実感しました。杉谷先生に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。
- ・杉谷先生のお話の仕方が非常にわかりやすく、とても聞きやすかったです。内容も自分では普段あまり考えることがないことだったので、非常に興味深かったです。
- ・カリキュラムに組織の教育理念を取り入れる、という点。学科でカリキュラム再構築の際は、大学の教育理念にリンクしている内容かを再度確認するべきだと感じた。
- ・カリキュラムマネジメントについて、組織文化と教育現場に直接的にコミットするミドルマネジメントのリーダーシップとの重要性を指摘されていた点は納得できる。ただ、学科や専攻と言った単位での組織文化は下位文化であり、上位の文化としての学部の組織文化に強い影響を受ける。さらに、学部での改革や先駆的な取り組みは全学的な組織構造や組織文化に影響を受けることに留意してマネジメントのための組織づくりを進める必要があると考える。
- ・体系的な内容であり、状況把握（特に、課題について）に役立ちました。特に印象的だった点として、到達目標（達成目標）に対して、方向目標（向上目標）を設定する意義について、先生のご見解を興味深くうかがいました。
- ・学部・学科間連携の重要性和難しさを痛感しました。
- ・カリキュラム編成に関する歴史的経緯などが非常に参考になった。
- ・カリキュラムマネジメントの考え方や詳細がわかりやすかった。大学に所属するようになり、なんとなくわかっている部分はあったが、教育課程の流れなど含めて、勉強になった。ありがとうございました。教養教育の考え方等については、本務校においても色々思うところがあるため、考えさせられた。各大学の課題としてもそうだが、日本全体の教育がこれからどうなるのか＝社会にでる学生たちをどのように育成するのかという点においても、考えていくべき問題であると感じた。
- ・課程科目（図書館学）のためカリキュラムを管理することはありませんが、公立図書館は情報リテラシーを担う社会教育施設であることからそれに関する授業ではリテラシー教育にも触れているので、その方面で全学的に協力できる余地はあると感じました。
- ・キャリアキュラム発展による意識は歴史が長いことに気づき、非常に面白かったです。特に3ポリシーの策定と公表義務化された流れの中で理解することが面白いです。確かにキャリアキュラムの明確化が大事であることは改めて理解できました。確かに学生の大学での経験に直接影響が大きいです。具体的に言えば、就職活動に大変大きな影響を及ぼすデータサイエンスやAI 関連授業を全学科でも増やせばいいとも考えられます。キャリアキュラム編成を効果的に進めることができる大学が将来性があるでしょう。協働文化と構造が大学の指導者たちから始まることは中心です。結局、教員の柔軟性は必要です。つまり、指導者が方向をきめながら、教員たちは適応する能力が大学の将来を決めるでしょう。
- ・逆向き設計論（求められている結果、承認できる証拠、学習経験と指導の三位一体）という考え方が参考になった。とくに、私の授業では「評価方法（承認できる証拠）」がいまいになってしまうことも多いので、修正の必要を感じた。また、コンテンツベース（何を教えるか）と、コンピテンシーベース（何ができるようになるか）との二項図式も参考になった。
- ・学部カリキュラムの改定を考えているところでしたので、歴史的な経緯や現状を知ることができて大変勉強になりました。方策についてもいろいろと提示していただけたので、今回のご講演を聞いた上で、それぞれの学部が自分にあった形を選ぶことができると思いました。一方で、学部をこえたカリキュラムのあり方が推奨されるなど、学部単独でがんばっていても達成できないものが多々あったと思います。その点について、上層部でのご判断を今後お願いできたらとも思いました。
- ・いまさら一般的な話を聞いても意味がない。講師が悪いというよりも企画がよくない。
- ・文科省を中心とした政策の動き、現状におけるカリキュラム編成の在り方、教学マネジメントの基本的な考え方等について確認することができた。学部を超えた教育課程の構築は本務校でも課題である。

・シラバス作成の際に参考となる有益な情報を得ることができました。ありがとうございます。教育目的・教育目標を設定する際に、「到達目標」ばかりに目がいていましたが、方向目標や体験目標という要素も考慮することで、より幅広い視点を持つことができました。「双方向授業」が漠然としたものに感じられていましたが、明確化するきっかけを持つことが出来そうです。

・カリキュラムマネジメントを学べてよかったです。

・杉谷先生が講義の中で「資料はお手元に配布されているかと思いますが」とおっしゃっていましたが、事前にスライド資料は配布されたのでしょうか。かなり専門性の高い内容で情報量が多すぎるので、資料があればそれを参照しながら拝聴したかったと思いました。その後配布される予定はございますでしょうか。また杉谷先生には本大学の取り組みについても事前に資料でお知らせしていたほうが、本大学ができていないこと、足りないことに触れながらお話しただけなので、一般論ではないお話が伺えたと思いました。また講義の中の事例が慈恵医大ではあまり参考にならないので、青学や女子大の事例があればそれを教えていただいたほうがより参考になったように感じました。

➡8/6に録画版と併せて資料を配信しました。

・学生に対して多様で柔軟な教育の確保のため、大学全体の成果目標を多角的な視点から捉え直すことができました。

・カリキュラムマネジメントについて、大学政策の展開から現在必要とされる政策概念について詳しく講話していただき、勉強になりました。課題はありますが、今回お話しして頂いた内容を参考にさせて頂きたいと思います。

・カリキュラム編成に対する文科省の考え方、及び大学としてカリキュラムマネジメントを運用する際の注意点などについて認識が深まりました。

・認知できる目標に限らず、目標を設定するという点について共感する一方、到達目標を測定可能なものに限定しても成果が矮小化されることはないのではないかという印象ももった。

・事前、または終了後でも、パワーポイント原稿（要旨）をいただけると、内容の理解がスムーズだったと思います。有益なテーマ・内容のご講演をありがとうございました。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

➡8/6に録画版と併せて資料を配信しました。

・数値化できるものだけを重視するのではなく、方向目標に向上がみられたか、という観点の重要性に言及された点が印象に残りました。

・カリキュラム編成は大学における永遠の課題であり、現時点の求められている論点を整理するのに大いに助かりました。専門教育と一般教養との兼ね合いも永遠の課題だ、現場では専門性を高めたがる傾向が、今求められているのは昔の教養ではない多領域跨る新しい教養だと思われる。その点についてもさらにうかがいたかった。

・1. 学部教育の目標あるいは育成能力の設定を考える時、日本学術会議の提示した分野別の参照基準は非常に重要と考えていたが、アンケートではほとんど参照されていない実態が示されました。その背景について、どのような理由が存在すると考えられているかその見解をお聞きしたいです。2. 逆向き設計によるカリキュラムデザインは、初等中等教育での事例はありますが、学部教育での事例も多いのでしょうか？具体的な大学学部教育の事例を伺いたいです。

・学習機会を与え、授業をするということにおいて、現在、インターネット上には情報があふれ、YouTubeでも解説動画などが多く存在しています。それらとの共存について気になっています。

・カリキュラムについて、歴史的な観点も踏まえてご解説いただき、たいへん参考になりました。ありがとうございました。

・PDCAサイクルを回していく際に、学生、教職員、大学全体、さらには社会まで巻き込みつつ多様なステークホルダーに配慮していく必要がよく理解できた。

・カリキュラムマネジメントの詳細について初めて知ることが多かったですが、全体観を把握することができ、大変貴重な機会になりました。

・講師は、講演中、「～とされている」という表現を多用した。これは、(1)単なる言説の引用なのか、(2)学界における定説なのか、(3)その言説に対する同意の表明なのか、あいまいである。引用した言説の位置づけ、あるいは、その言説と自説との関係性を明白にすべきであろう。講師は、ミドルリーダーの役割の重要性を指摘した。これは、注目に値する発言であるが、机上の空論に終わる可能性がある。実際に、それが活用されている具体的な先行事例があるのかに関して、説明が欲しかった。

・今回の講演会では、カリキュラムマネジメントにおいて、日常的教育活動を営む現場の状況や意見を反映しつつ、そこでの合意形成や協働性の構築を図ることの重要性が示唆されるのではないかと考えている。

・内容は、常勤の教員向けのように受け止めました。大学の魅力を高める示唆を受けて、貴学の先生方がどのように取り組まれるか、サポートできたら幸いです。

・カリキュラムのデザインとマネジメントについて、大変勉強になりました。今後の自分の教育活動に活かしていきたいと思いました。ありがとうございました。

・興味深く拝聴いたしました。ありがとうございました。カリキュラムマネジメント上の協働を目指すうえでの、組織構造・組織文化の重要性を、あらためて再確認いたしました。ただ、全体的に情報量が多いためか、重要なところやお話の流れが見えづらいところがありました（あくまで個人的な感想です）。

・教育（学習）目標について、到達（達成）目標だけではなく方向（向上）目標や体験目標についても考えるという視点は記憶に残りました。参考にさせていただきます。

以 上